

領域：	パブリック、グローバル		
テーマ：	データで学ぶマクロ経済学		
担当者名：	木成 勇介		
開講時期：	前期：月曜 4・5・6限	募集定員：	25名
内容：	この授業では、GDP や失業率、インフレ率や経済成長など、マクロ経済学における重要テーマを講義・演習・発表を通して学ぶ。マクロ経済学とは、一国全体の経済活動に注目し、インフレーションや経済成長、失業などの様々な経済現象のメカニズムを解明しようとする学問である。		
到達目標：	新聞やニュースで用いられるマクロ経済に関する用語をより深く理解し、適切に使用できるようになる。関連するデータを入手・分析し、論理的に報告できるようになる。		
講義方法：	毎回の授業は、担当講師による講義、少人数グループでのデータを用いた演習又はあらかじめ指定された研究テーマに基づくグループワーク、受講生による発表、及び担当講師による補足説明で構成される。まず、担当講師がマクロ経済学における重要テーマの一つを選び、講義形式で解説する。講義後、受講生は少人数のグループにわかれ、講義テーマに関連するデータを web から入手し、Excel などを用いて分析する。分析後、簡単な報告資料を Power point などを用いて作成し、各グループで発見した内容を報告する。第 8 週以降は、担当講師があらかじめ設定した研究テーマに従って研究を進め、その進捗状況を報告する。最後に、担当者が各グループの報告内容を補足・解説する。		
準備学習：	普段から新聞や TV、web など経済に関するニュースに触れておくことが望ましい。		
成績評価：	出席(30%)、毎回のグループ発表(30%)、最終報告会での報告(20%)、最終報告の内容をまとめたポスターの提出(20%)で評価する。		
欠席基準：	授業実施回数の 3 分の 1 (端数は切り捨て) 以上を欠席した場合は、単位を修得することができない。		
講義構成：	<p>&lt;第 1 回～第 6 回&gt;</p> <p>GDP、消費、投資、貿易、物価、失業、経済成長、財政政策、金融政策、政府債務、貨幣残高、金利、株価、賃金など、マクロ経済学の重要テーマから一つを選び、講義する。講義後、少人数のグループに分かれ、講義テーマに関連するデータを web から入手し、Excel などを用いて分析する。分析後、簡単な報告資料を Power point などを用いて作成し、各グループで発見した内容を報告する。最後に、担当講師が各グループの報告内容を補足・解説する。</p> <p>&lt;第 7 回&gt;</p> <p>担当講師が設定した 5 つの研究テーマを紹介する。受講生は 5 つの中から 1 つを選び、同じ研究テーマを選んだ他の受講生とともに研究を進めていく。</p> <p>&lt;第 8～14 回&gt;</p> <p>GDP、消費、投資、貿易、物価、失業、経済成長、財政政策、金融政策、政府債務、貨幣残高、金利、株価、賃金など、マクロ経済学の重要テーマから一つを選び、講義する。講義後、各自の研究テーマに従って研究を進める。適宜、担当講師が指導・助言する。講義の最後には、グループ単位で研究の進捗状況を報告する。</p> <p>&lt;第 15 回&gt;</p> <p>最終報告会を実施する。</p>		
履修条件：	このプロジェクトに関する説明会を 2 月もしくは 3 月に実施する。日時は追って掲示する。受講希望者は説明会に出席すること。また、「経済学入門」の単位を修得していることが望ましい。		
推奨科目：	特になし。		
選考方法：	人数が多い場合は選考を実施する。		
備考：	必ず PC を持参すること。また、最終報告会は他の教員が受け持つプロジェクトと合同で実施する可能性がある。		
説明会：	このプロジェクトに関する説明会を 2 月もしくは 3 月に実施する。日時は追って掲示する。受講希望者は説明会に出席すること。		